

第7学年 ふるさと科学習指導案

学 級 男4名 女10名 計14名
授業者 T1高橋 幸也 T2平山 豊

1 題材名 地域産業体験（ワカメ体験学習）

2 題材について

(1) 教材観

本題材は「ふるさと科3つの柱」のうち、「地域への愛着を育む学び」と「生き方・進路指導を充実させる力を育む学び」を深めることをねらいとして設定している。

「地域への愛着を育む学び」の学習では、5年生で林業体験、6年時では新巻鮭作りの地域産業についての学習に取り組んだ。

中学部では3年間を通して『ワカメ養殖』について学習する。吉里吉里地区のわかめ養殖は培われた高い技術と徹底した管理により三陸の中でも良質なワカメとして有名である。7年生から、地域の方と共に種の巻きつけや芯裂きなどの作業やボイルや袋詰めなどの加工作業について体験活動を取り入れて学習し、生徒が製品化したものを修学旅行時等で販売する活動を行っている。

これらの活動を通して、地域への愛着や誇り、地域資源の再確認、働く人たちと協働し、社会人としての職業観について学ぶことができると考える。また、復興をめざす地域社会の中で自分の役割を自覚し、主体的に将来を切り拓く意欲を育成することも可能な題材である。

(2) 生徒観

生徒は、1学期に郷土芸能伝承活動に意欲的に取り組み、郷土芸能発表会では、地域に伝わる3種類の郷土芸能について小学部の児童と共に地域の方に披露した。

また、8月に行われた吉里吉里祭りにも積極的に生徒が参加するなど、ふるさと科の学習を通して地域の活動に愛着を高め参加することができている。

吉里吉里地区の住民は、地域の子どもたちに大きな期待を寄せており、ふるさと科の学習は、地域の伝統や文化を子どもたちに伝える場となっている。

本題材の学習においても、ゲストティーチャーから体験活動を行なうことにより、さらに主体的に取り組むことができると考えられる。

(3) 指導観

本題材では、これまで学習してきた内容を活かし「地域への愛着を育む学び」と「生き方・進路指導を充実させる力を育む学び」をより深めることができるよう指導していきたい。

また、本題材は3年間の学びであることから、7年生において、地域で活躍し復興に従事する方に話を聞く活動を通して、漁業体験への意欲をもたせることができ、さらに、地域に生きる自覚と誇りをもたせることができると考える。

また、生徒たちが主体的に活動できるよう、課題を明確にし、「自分たちに何ができるのか」を考えながら学習を進めていくことで、高い技術力をもった吉里吉里わかめ養殖について、地域産業のワカメの良さや従事する方の想いに気付くことができると考える。3年間を通した学びにより、ふるさとに誇りを持ち、地域への愛着を育む態度を育てる学習を深めていきたい。

3 題材の指導目標

地域の産業について体験的に学習することを通して、地域のよさや自分の将来の生き方を主体的に考えることができる。

4 題材の指導計画・評価計画

時間(学年)	学習内容	主体的に取り組む態度	自ら判断し、行動する力	仲間や地域とのかかわり、伝える力
1(7年) 本時	吉里吉里のワカメの良さを発見しよう	ワカメの特徴やワカメの養殖を通して、地域産業の良さを進んで考えることができる。		
2~3(7年) 1~2(8年)	ワカメ養殖の手順を知ろう。		どのようにしたら、よりよく種のまき付けができるか、考えて作業している。	ワカメ養殖の手順を通じて地域とのかかわりを理解している。
4~6(7年) 3~5(8年)	どのように収穫するか体験してみよう (収穫、ボイル、塩蔵)		収穫作業の自分の役割や作業内容を意識し、行動している。	収穫を通して三陸の豊かさ、地域のすばらしさを理解している。
7~13(7年) 6~12(8年)	よりよい製品になるよう考えながら加工しよう (芯裂き、袋詰め)	商品価値を高める芯裂き作業に意欲的に取り組むことができる。	ブランドイメージの重要性を学びより良い製品になるよう考え作業している。	
(9年)	より多くの人に伝える工夫をしながらワカメ販売体験しよう (修学旅行)		自分たちが加工したワカメの良さをより良く伝えながら販売体験をしている。	吉里吉里ワカメの良さを東京の販売で伝えることができる。
(9年)	地域産業体験を通して学んだことを「文化祭発表」で伝えよう			自ら生産から販売まで手掛けたことで学んだ働くことの意義や地域への想いを伝えることができる。

5 本時の指導(1/13時)

(1) 目標

ワカメの学習を通して、吉里吉里のワカメのよさ、すばらしさ、価値に気づくことができる。

(2) 本時の構想

①生徒の思考が深まる学び合いの工夫について

本時では地場産業であるワカメ養殖の現状や重要度、人気について資料や生徒相互の学び合いの学習を通して理解を深めることが目標である。実際に事業に関わる方の話を聞くことで、地域に対する思いを知り、新たに気づき学んだことを生徒同士で共有しながら学習のねらいに迫りたい。

②生徒の思考に沿った課題設定について

9年生の修学旅行でのワカメ販売の様子や、多方面からの注文が多いことを紹介し、なぜこんなに吉里吉里のワカメが人気があるのかを予測させ、そこから課題を設定し学習を深めていく。

(3) 本時の評価規準

評価規準	指導の手立て
ワカメの特徴やワカメの養殖を通して、地域産業の良さを進んで考えることができる。(記述・発言)	地元にいれば当たり前だと思っていた地域の特産物が、外部からは評価されているものだという助言をしながら、考えを深める支援をする。

(4) 展開

段階	活動内容 (●発問 ○生徒の反応例)	指導の手立てと留意点 (◎評価)
導入 10分	1 問題提起 ・修学旅行でのワカメ販売の様子を見せる ・大槌町発祥の磯ラーメンなどの特産品を利用した商品がつくられていることを確認する 2 課題設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 「吉里吉里ワカメ」の良さをみつけよう。 </div> 3 予想 課題に対する予想を立てる。 ●「他のワカメと何が違うのだろうか」 ○おいしい ○品種が違う ○育て方が違う	・本題材のゴールを見せると共に、なぜそれほどの人気を集めたのかという疑問から本時の課題を導入する。 ・出てきた予想は板書し、様々な考えが出るように支援する。 ・講師の小石さんを授業者が紹介し、本題材の学習のために、本時の講師をはじめ多くの方々が協力してくれていることを理解させたい。
展開 25分	4 ワカメの特徴 ワカメの分布や品種、部位 5 ワカメの養殖方法 ワカメの養殖を、1年のサイクルで紹介する。 6 吉里吉里のワカメ養殖の現状 a. 生産量、市場での評価 b. 種苗育成技術の高さ c. 地域の人々とワカメ養殖の関わり 7 良さについて話し合う [吉里吉里ワカメのよいところ] <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい ・歯ごたえがいい ・養殖している人の熱い思いがある ・養殖の手間を一年間丁寧に行なっている </div>	・スライドで学習した情報と板書で残した予想を検証し、生徒が主体的に課題の答えに迫れるよう促す。必要に応じて授業者が講師に話題をふり、追加の情報を提供する。 (品種を保護するために県外への持ち出しをしていないこと、品質向上のための手間を惜しまないことなど) ・bとcについては講師のお話から、吉里吉里でワカメの養殖に携わることへの誇りを感じ取らせたい。 ・学習課題の答えを自分の言葉でまとめることで、主体的に学習に関わる気持ちを高めたい。また、なかなかまとめられない生徒へは個別に声をかけ、自分の言葉で授業を振り返ることができるよう支援する。 ◎地域の特産ワカメの良さに気づくことができたか。(記述・発言)
終末 8分	8 まとめと振り返り 振り返り用紙への記入 発表 9 講師へのあいさつ	・わかったこと、友だちの考えから感じたこと、今後自分で取り組みたいことなど、学習の振り返りをさせる。 ・本学習が講師をはじめとする保護者や地域の協力で成り立っていることに感謝し、地域産業を学ぶことの意義を感じさせ、これからの体験学習に主体的に取り組む気持ちを持たせたい。